



1 学期終業式 式辞

皆さんおはようございます。今日が1学期最後の日となります。

始業式から約4か月、皆さんそれぞれに、学習、数々の行事、生徒会活動、部活動等よく頑張ってきました。

現場実習先からも、皆さんが大変一生懸命取り組んでいて、素晴らしいという言葉がたくさんいただいて、誇りに思っています。

今年度から一部共学化で男子生徒19名が入学しましたが、男女が連携・協力して、クラスマッチを始め、学校の活性化に大いに寄与、貢献してくれたと感じています。

また全般的に、挨拶は自分から明瞭な声であいさつできる人が増えてきて、素晴らしいと感じています。挨拶は社会人としてのマナー、エチケットとして最も基本で、最重要事項です。挨拶ができる人になりましょう。

しかし、掃除については、もっとできると感じています。

「掃除は、人間が生活で書く答案だ。自分がどれくらいのしろものであるかを示す、人間の答案が掃除だ。」と昭和の偉大な教育者 東井義男先生はおっしゃっています。私もそう思います。

掃除をする態度を見れば、その人がどのような人なのか、信頼に値するのか、将来どんな人生を歩んでいくのか見えるような気がします。

掃除には特別な才能は必要ありません、誰でもできます。掃除ができることは、勉強ができる、スポーツができることと同等かそれ以上に大事なことだと思います。掃除ができる人になりましょう。

掃除は、環境をきれいにするを通して、自分自信を磨き高めていくことです。掃除は、輝く将来、素晴らしい未来へつながっていきます。そして、学校スローガン「誇り高く夢を道しるべに、凜と煌めくになりたい自分をつくる。」の基礎でもあります。

さて、これから夏休みです。自由に使える時間が増えます。健康や安全に気をつけ、したかったことをしたり、家族のためにつかいましょう。また、健康や安全に気をつけるとともに、規則正しい生活を送り、いろんなことに挑戦し充実した夏休みにしましょう。

2学期の始業式、元気に会いましょう。

8月 主な行事

日	曜	内 容
2	土	福祉科三和児童館夏祭り
19	火	進学夏季課外授業 ～22 (木)
22	金	登校日
23	土	第2回オープンスクール
25	月	振替休日
26	火	2学期始業式
27	水	1・2年基礎学力診断テスト

毎日焼かれるような猛暑が続いています。暑いとそれだけで、何事に対してもやる気がそがれる感じがしますが、長期休みは普段以上に自分の時間がとれるので、生徒たちには、健康や安全に気をつけ計画的に有意義に過ごしてほしいと思います。

家庭で過ごす時間が長くなる分、子どもたちの様子をしっかりと見守り、声掛けをお願いします。

全校による「追悼の集い」

今年令和7年ですが、昭和から数えれば100年そして、戦後80年に当たります。戦没者追悼の式典が各地で開催され、ニュース等でも取り上げられました。岩国の高等学校でも追悼式典が実施されニュースになっていました。

10代で戦争を体験した人が、90歳以上のご高齢になっていらっしゃることから、戦争体験とその記憶の風化や体験談を語り継ぐことが大きな課題になっています。

本校においても、3号館横、2号館入り口に「純真の碑」が建立されています。

光海軍工廠において、学徒動員で作業に従事していた33名が空襲により、身を寄せ合い抱き合うように、亡くなられていた様子をモチーフにした慰霊碑です。

今年節目の年にあたり、亡くなられた皆様へ哀悼の誠を捧げ、心からご冥福をお祈りするとともに、平和維持への決意を新たにすために、全校で戦没者「追悼の集い」を行いました。

河上同窓会長からお話をいただき、亡くなられた皆様の同期生である杉村様からも当時の様子をお話ししていただきました。生徒たちは、静かに真剣に耳を傾けていました。

8月14日に、毎年実施している「純真の碑、追悼の集い」ですが、規模を拡大して生徒会役員や希望者、教員へも呼びかけて実施します。

世界に目を向けると、平和をないがしろにした行いが散見され、危機感を感じます。ユネスコ憲章の全文には次のような一文があります。「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」その通りで、追悼の集いを通して、一人ひとりの心の中に平和の砦が築けたらと思います。

いい本は人生を豊かにしてくれる

下の本は、昨年度生徒向けメッセージで紹介した本です。なかなか感動的です。それ以外にも、「出口のない海 横山秀夫」「永遠の0 百田尚樹」「月光の夏 毛利恒之」等を紹介しました。戦後80年の現在、戦争の不条理、平和のありがたさについて、今一度考えたいと思います。



『日輪の遺産』 浅田次郎 著 講談社文庫

映画にもなった物語です。帝国陸軍が、マッカーサーより奪い、終戦直前に隠したという時価200兆円の財宝をめぐり、ある老人が遺した手帳に隠された驚くべき真実が、50年たった今、明らかにされていきます。財宝に関わり生きて死んでいった人々の姿、特に若い女生徒たちの思いや行動には、強く胸を打たれます。